

第2章 本市の現状と課題

1 現状と課題

(1) 「ふじみ野」の魅力の発掘と新たな文化の創造

本市は、東洋経済新報社による「住みよさランキング」において、2年連続で埼玉県第1位（平成27、28年）に選ばれています。

平成28年に実施した「文化や芸術に関するアンケート調査（以下「アンケート調査という。」）の結果では、本市は都心に近く、買い物や医療、交通機関などの日常生活の利便性が高く、自然環境も豊かだと感じている市民が多いことがわかりました。

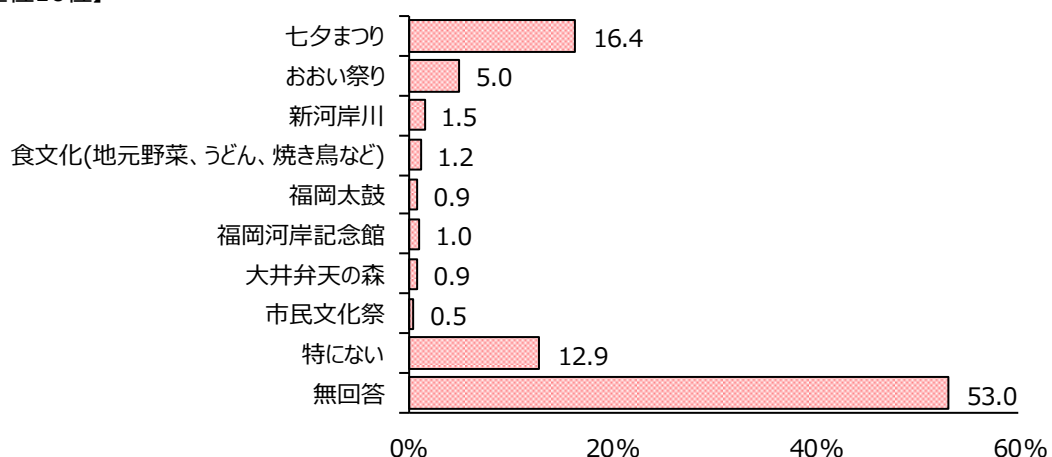
また、本市の地域文化としては、七夕まつりが最も多くの回答を得ており、第2位のおおい祭りとともに、地域文化として認識されています。しかし、その他の回答はごく少数となっており、「特にない」と「無回答」と回答した市民をあわせると6割以上にものぼります。

計画策定にあたり実施したワークショップにおいても、本市に対して「これといった特徴がない」、「住みやすいけど、誇れる何かが欲しい」という意見が多くなっていることから、住みよさととどまらない本市の魅力や独自性を改めて問い直し、「ふじみ野らしさ」を構築する必要があると考えられます。

■文化や芸術に関するアンケート調査

【Q：ふじみ野市の「地域文化」といえば、何を思い浮かべますか。】（自由記述）

回答者：581人
【上位10位】



(2) だれもが文化芸術に触れる機会の充実

アンケート調査の結果から市が取り組むべきこととして、子どもの頃から文化芸術活動に親しむ機会の充実、誰でも参加できるイベントの開催、文化芸術の鑑賞・体験機会の充実、情報発信や文化施設の充実といった、文化芸術に関する環境整備についての期待が高まっていることがわかりました。

また、文化芸術の鑑賞や活動の機会については、週に1回から月に1～2回の頻度で鑑賞に出かけたり、活動に参加したりしている人は、いずれの分野においても1割に満たない状況でした。文化芸術の鑑賞や活動を行わない理由としては、時間がないことやきっかけがないことが最も多くなっています。一方で、活動をはじめたきっかけは、家族や知り合いが活動をしていたから、書籍や映像を見て興味を持ったからという理由が多くなっています。

音楽、舞踊、生活文化、国民娯楽の分野では、鑑賞に出かける人よりも定期的に活動している人⁴の割合が高く、市内で文化活動を行っている団体の分野別構成とほぼ合致しています。こうした団体の活動目的は、仲間づくりや生きがいづくりが最も多く、文化芸術活動を通して人々のつながりが生み出されていることが伺えます。

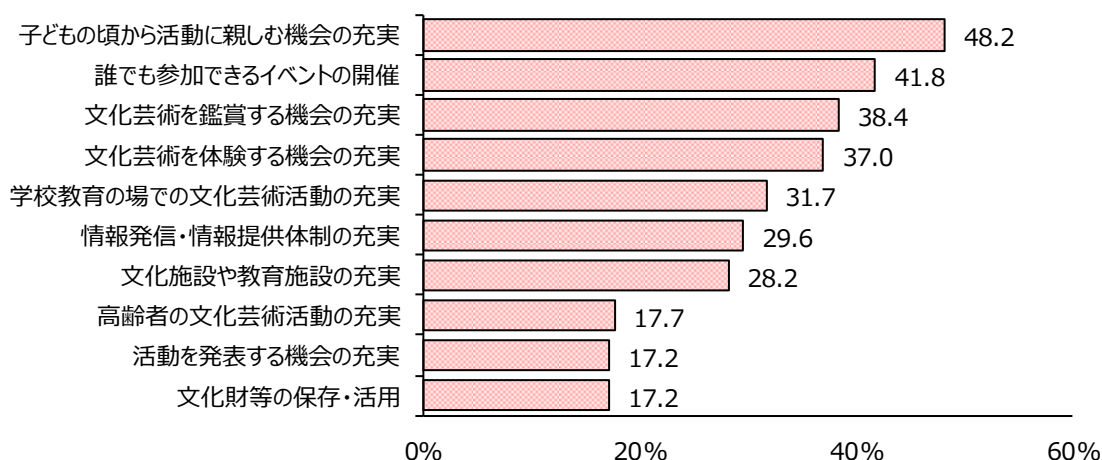
さらに、「ふじみ野市文化芸術・スポーツ活動に関する意識調査（以下「市民意識調査」という。）」では、市民と行政が協働して施策づくりを行うことが期待されており、市民と行政の協働による、文化芸術に触れる多様な機会の充実が求められています。

■文化や芸術に関するアンケート調査

【Q：文化芸術活動を通したまちづくりを進めるためにふじみ野市が取り組むべきことは何だと思いますか。】

回答者：581人

【上位10項目】



4 「週に1回」から「月に1～2回」の頻度で鑑賞や活動をしている市民の割合を比較した。

(3) 多様な市民の交流促進

ふじみ野市は平成17年（2005年）に合併し誕生した新しいまちです。首都圏のベッドタウンとして発展し、市外出身者が多いまちでもあります。

また、本市では年少人口（0～14歳）の増加率が埼玉県内でも特に高くなっており、それに伴い子育て世代が増加しています。中には孤独な子育てをしている家庭もあり、どのように仲間を作り、地域とのつながりを作っていくのが課題となっています。

また、支援を必要とする高齢者や障がい者も増加しており、周囲の理解や身近な地域での相談体制の充実が必要となっています。

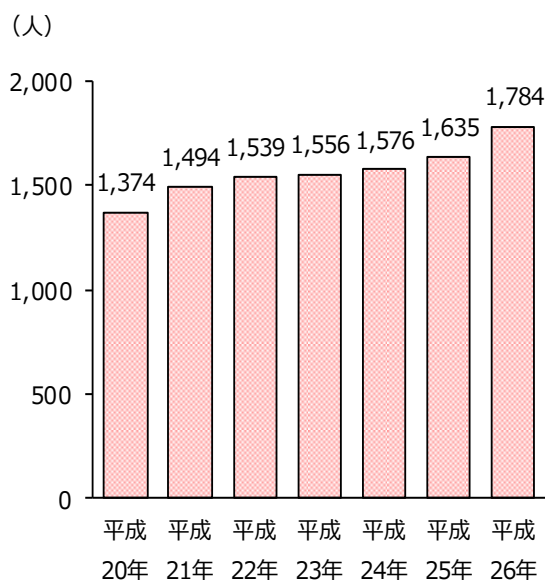
さらに、本市では外国籍市民が年々増加しており、特に、中国・韓国・フィリピン国籍の市民の増加率が高くなっています。日本語が理解できない場合も多く、地域や学校など、日々の生活でのコミュニケーションがとれずにトラブルに発展したり、孤立したりしてしまうケースもあります。その他にも、不登校やいじめ、高齢者のひきこもり、生活困窮者の問題なども存在し、多岐にわたる支援が必要となっています。

■埼玉県「県内市町村の年少人口等増減率」
（平成26年1月1日～平成27年1月1日）

順位	市町村名	増減	伸び率
1	ふじみ野市	322人	2.13%
2	戸田市	418人	2.06%
3	吉川市	160人	1.50%
4	宮代町	44人	1.23%
5	三郷市	187人	1.07%
6	朝霞市	189人	1.00%
7	志木市	43人	0.44%
8	白岡市	24人	0.37%
9	新座市	60人	0.27%
10	富士見市	33人	0.23%
11	滑川町	6人	0.21%
12	東松山市	17人	0.16%
13	川口市	63人	0.08%
14	以下マイナスの伸び率	—	—

資料：埼玉県統計資料より作成

■ふじみ野市「外国人登録人口の推移」
（各年3月末現在）



資料：ふじみ野市ホームページより作成

2 本市の文化的資源

(1) 歴史や文化財

本市には古くから人が住んでおり、人々が生活した痕跡は約2万7千年前の後期旧石器時代にさかのぼります。縄文時代、弥生時代の遺跡も多数発掘されており、縄文時代の遺跡である上福岡貝塚で発掘された片口土器（国重要文化財）は東京国立博物館に展示されています。また、奈良時代の東台遺跡からは製鉄の跡が発掘され、直径60cmもある羽釜の鋳型が発見されています。

江戸時代には江戸と川越を結ぶ新河岸川舟運で栄え、九十九曲がり（くじゅうくまがり）といわれた新河岸川の流れと福岡河岸記念館として公開されている旧福田屋、旧江戸屋の建物が往時の様子を今に伝えています。

また、現在、大井小学校敷地内に建っている西洋風建築の旧大井村役場庁舎は昭和12年に建てられ、国の登録文化財に指定されています。

これらの歴史や文化財は、市民のアイデンティティや愛着の醸成に欠かせないものであり、まちの風景や景観を形作る重要な文化的資源となっています。

(2) 都市と共存する自然

市内には、武蔵野の面影を残す雑木林や畑など、人々の暮らしとともに育まれてきた緑豊かな環境が継承されています。また、新河岸川周辺には、川越と江戸を結ぶ新河岸川舟運で栄えた福岡河岸の面影を残す緑地公園（斜面林）や人々の暮らしを支えてきた水田が広がっています。

一方、市街地では、公園や緑地広場などを活用し、自然と都市が調和したまちづくりが進められており、天気の良い日は親子連れや散歩をする人たちがゆっくりとした時間を楽しんでいます。

一部の地域では都市化の影響により、雑木林や屋敷林が失われ、その面影や風情が変化しつつあり、今、受け継がれている緑地は、ゆとりある空間に包まれた快適な環境として市民がつどい、交流する場としても、市の貴重な資源となっています。

これらの貴重な自然環境は、緑のネットワークでつながり、文化芸術の場と融合した形で、新たな魅力あるふじみ野らしい景観を生み出す可能性を秘めています。

(3) 文化活動を担ってきた市民

本市では、市民による自主的な文化活動が盛んに行われてきました。図書館や資料館、公民館、コミュニティセンターといった文化施設は、市民の強い要望により建設された経緯があります。

公民館で活動する文化団体だけでも500団体以上あり、他の公立文化施設や民間施設、市外で活動をしている市民を含めると相当数に上ります。

公立文化施設では、市民文化祭や館の名称を冠したフェスティバルなどが行われ、市民の文化活動の発表の場、交流の場となっています。また、こうした文化活動を行っている市民が、市内小中学校や福祉施設などに出向いて指導を行ったり、表現活動を行ったりすることで、子どもたちや施設で孤立しがちな市民が文化芸術に触れ、地域の人たちと出会い、交流する機会にもなっています。

このように、本市には市の文化活動を担ってきた多くの市民がおり、文化活動を通じた交流促進や、文化を次世代に継承していくための貴重な人材となっています。

■新河岸川

